

【静岡サレジオ幼稚園】

●2023.1.10 ふりかえり(先生2名+園長先生)

先生1(ちかりんチームに同行):子ども達は去年と今年の2年連続で行って、私は初めて行かせていただいたのですが、本当にいろいろなものを発見して、本当にこんなちっちゃキノコを、先生見つけたって言われて、え、どこどここって、あ、本当にこれよく見つけたねっていうぐらいに、本当子どもの視点というか、大人だから見つけやすいではなくて、やっぱり子どもの身長差もあると思うんですけども、ふだんの幼稚園よりも豊かな自然の中で、より興味をそそられるこの森の中だからこそアンテナが張るのか、もうどんどんどん見つけない時がない、短いこの時間だったんですけども、本当にキノコから1つの葉っぱとっても、なんかこう連想してみたてたりとか。

あの時期虫もちょうどたくさんいましたし。私、この時期にてんとう虫見たのは初めてだったので、てんとう虫見つけた子によく見つけたねって言ったり、バッタもいたんですけど、よく見つけたねって。改めて幼稚園にいたら感じないことを遊木の森に行ったからこそ感じられました。

先生2(ひろじいチームに同行):私のグループは逆に、なんか人任せっていうか、あんまり自分で行くっていうのが最初なくて、スタッフさんにも自分で探すんだよって言われちゃうくらい。なんか、スタッフさんとか私が見つけたものを、僕にもちょうだい私にもちょうだいみたいな感じだったんですけど。



去年は雨で、体もあんまり思いっきり動かせなかったけど、雨は雨のときしか見られないものが見れたんで、その時はすごいいい体験だったなってすごい思うんですけど、今回はちゃんと晴れて、その中で思う存分いろんなところに散策できたんで、なんかもっと自分でかきわけて探してほしいなって思って。なんかじゃあ、うーん、なんだろう。これは自分がお手本見せればいいのかみたいな、お手本でこうやって探すんだよみたいな、こういうところにもあるんだよっていうのも、見せたらいいのかなって思って。私が積極的にここにもこんなのがあった、こうやって探すと見つかるかもしれないよみたいな感じで、声をかけてったら、ちょっとずつ自分たちでも探すようになったかなって思って。で、去年はなんかもうなんでもかんでも袋に入れるみたいな、あーこれもあった、これもあったみたいな感じだったんですけど、なんかそれよりもなんか見つけて、見ることを楽しむだとか、なんかあんまり袋に入れてる子はいなくて。用意してくださった観察ケースの中をみんなで順番でじっくり見た

りとか、なんか、そういう姿が今回はあったのかなって。それが去年と違うなって思って、その中でもこう気に入ったものを袋の中に入れて持って帰るみたいな感じで。だから、こう集めるのに集中するよりも、こう見つけて観察とか、触ってみるとか、あと、お手紙をみんなで書いてみるとか。なんか、そっちの方に集中してたかなって思いました。



—: スタッフのひろじいのふりかえりでは、いろんなものを見つけるっていうところはうまくいったんだけど、それを使って遊ぶっていうねらいのところまで、なかなかうまくできなかったっていう反省をされていて、でも先生が楽しんでくださっていたのがよかったって言っていました。

先生2: ひろじいが教えてくれた、穴の開いた葉っぱを太陽の光に当てるっていうのを、帰ってから幼稚園でも遊びました。いちょうの葉っぱなんかを重ねたりとかして、影で遊んでいて、私が手でも作れるんだよって言ったら、もう手も使いながら。なんかその季節ならではの、やっぱ冬じゃないとはっきり影が映らないので。みんなすごい楽しそうにしていました。

—: その場で子どもさんに直接伝えきれなかったことを先生にお伝えしておいたって、ひろじいが言っていました。幼稚園に戻ってからやってくれるかなって心配していたので、それをお聞きできて良かったです。本当は、その場で子どもたち発信でもうちょっと遊びに繋がれたらよかったと思うのですけれども、そこは班によってちょっと差が出てしまったっていうのが今回の反省点ではありますね。その点ちかりんチームは、結構子ども達主体で遊べていたかなっていう気がしたのですけれど。

先生1: 1つの葉っぱをとっても、他の何か気になるものをとっても、すぐ袋に入れるんじゃなくて、よく見てねって最初に教えてくださったので。私もそれを聞いて、多分普段幼稚園だったら、あ、持ってきたのぐらいで正直終わってしまうんですけど、1個1個の子どもが見つけたものをじっくり見てみて。そこからの何々みたいだからこうしようみたいなどまではちょっと行かなかったんですけど、でも1個のものをじっくり見るっていうのは、行

かせていただいた日はすごいあったなと思いました。教えていただいた茎の部分がさわるとなんかカクカクするのとツルツルしてるのがあるっていうのは、私もすごいおもしろくて、本当にちっちゃい葉っぱなんですけど、そういった視点は私にはなかったので教えていただけなのは勉強にもなりました。子どももなんかボコボコとかカクカクとか、子どもによって表現が違ったので、言葉で伝えるっていう伝え方がこうそれぞれ個性が出ていて、その面白さも見出されました。あとは、1個のものをよく見るっていうことをその日に経験したからか、その後も幼稚園にクリスマスツリーを飾ってあったんですけども、点灯するやつで電球がピカピカしていて、で近くにイチヨウの木があるんですけども、イチヨウの葉っぱを持



って、その電球をこうやって、ちょっと葉っぱが薄いので、こう透けて見えるっていうのを1人の子がやって。ピカピカしたのですごい綺麗に見えて、面白いねって。今までイチヨウの葉っぱでは集めるとか花束にするくらいだったので、1個のものをよく観察するっていうエコエデュさんの方針というか、ちかりんのやり方がすごく繋がったんだなっていう風に思いました。

—:それは嬉しいです。クリスマスでサレジオさんだからっていうこともあって、そういう遊びにつながったんですね。最近は外でお散歩とかされたりしてるんですか？

先生1:12月にはクリスマス会の練習もあったんですけど、1人1個図鑑があったので、図鑑を持って散歩をするっていうのを各クラス共通でやりまして。発見だけじゃなくて、これってなんだろっていう風に疑問も持つようになって、なんだろ、じゃあ図鑑で見てみようってなったりとか。でも図鑑の中で見つけるのも意外と経験しないとできないもので、なんかわかんないからすぐぼいってなっちゃったりしたんですけど、1回見つけると、照らし合わせてこれだこれだとか、秋だったので落ち葉の葉っぱも、その木の葉っぱもこれだと思うっていうのはやっていました。

先生2:あとなんか図鑑にツバキとサザンカが載ってて、で、そのサレジオの森にあるのはたぶんサザンカなんですけど、なんかちょっと似てるじゃないですか。

—:そうですね、すごく似てますね。

先生2:見てて、これはどっちだっていう話になって、クラスの中でここはこうだからこっちじゃないかとか、こう両方見ながら友達同士で話してて、ここはそっくりだからサザンカじゃないって答えを導き出せてる子いれば、いやツバキだよっていう子もいたりとか。

—:正解かどうかよりも、まずは五感をつかっていろんな視点から捉えるっていうことが大切なんですよね。遊木の森でも、例えばちかりんのチームの子が、同じところに生えてる葉っぱで同じように見えても、3つ葉のやつと4つ葉のやつと違うってものを発見したって、あれがすごい観察力だなんて思って。すごい独特な視点を持ってる子がほんとに何人もいましたね。

先生1:Rくんがなんかすごい生き生きとした表情で、見ていて楽しそうだなってというのがすごい伝わってきて。Rくんは唯一木にも注目していて、なんかこの木の下に穴があいているよとか。他の子はやっぱり花とか虫とかに注目が行くのですが、Rくんは木に感嘆していたとか。正直そんなにすごいかな?って思ったのですが。なんかひとつの木をとってもそういう風に子どもって感じるんだなって、改めて私も思いました。

—:私が写真を撮りに行ったときも、1人そういう子がいるとみんなつられて楽しそうに色々発見して見せてくれるんですよね。それもみんなそれぞれ違った着眼点があって、すごくおもしろかったですね。

—:あと、また別の班だったんですけど、イノシシがすごい掘り返した土のところで遊んで、みんな真っ白い靴をすごい汚しちゃって。ちょうどPTAの保護者さんが一緒の班だったので、「あのこれ大丈夫ですか?こんなに汚しちゃって?」って聞いてみたんです。そしたら「これがいいんです」って。「だからサレジオ幼稚園さんに入れているんです。この間はお芋掘りもして、いろんな経験をさせてもらえるからいいですよ。」なんて保護者さんおっしゃってました。

先生1:やっぱり保護者の方って靴見て、あ、今日はあんまり外に行かなかったんだなっていうのは思われるみたいで。幼稚園でも心だんの遊びで、園庭の砂場でどろんこになって、それを見て、あ、いっぱい遊んだねって。あーいっぱいお水で遊んだんだねってやっぱり保護者の方は嬉しく感じられるみたいで。汚した分だけ、楽しく遊んだんだね、ダイナミックに遊んだねっておっしゃってくれるので。

—:すごいですね。普段から遊んでいるんですね。

先生1:確かに結構汚れます。砂場でダメだよとかあんまり言わないですね。

先生2:まあ、夏とかは靴脱いじゃって遊んでたら言っちゃうときもありますけど。でも本当にいつも体操着はものすごい汚れます。毎日靴下変えるし。

—:そういう日々の積み重ねがあって、さらに自然豊かなところでの体験につながるんだなって思いました。園庭といえば、ビオトープの構想は進んでいらっしゃるんですか？

先生1:まだ今ちょっとこう滞ってしまって、やりたいとはずっと言ってるんですけども。お父さんたちもスタンバイはできていて、こういう業者さんはあるから言ってってということは言ってくれてますけど、まだどういうものを育てて、どういうものを子どもたちに学ばせたいかっていう趣旨をちゃんと明確にしないと、入れるものがバラバラになっちゃうからって言って、そのツメもまだしていないので。もうちょっと。

—:そこがすごく大事で、なかなか難しいですね。すごい楽しみにしています。

—:それにしても、やっぱり2年間こう積み重ねてやらせてもらえていいなって思いました。こちらも見えがととも増えました。

園長先生:本当に去年とはまた違った感じでしたね。こうして記録をとっておくとその成長も感じられますしね。去年は教員の視点がやっぱり3歳時なりのものだし。定期的に通えたらいいのかなって思うんですけど、なかなかスクールバスは他のクラスも使うもので。

—:そうですね・・・

園長先生:ぜひ来年も遊木の森に行かせてもらいたいです。もう3年積み上げだよなっていて。この振り返りを積み重ねて、保護者にもお伝えできたらと思っています。最後の年は本当すごいことになりそうですね。こちらの声かけとか、しかけによってどんどん変わっていきと思っている、さっきおっしゃったように、独特の発想の子とか積極的な子が何人もいるので、そうすると割と周りが感化されていくので、こういう子からどンドンどンドン広がっていったら。

去年とかも、キノコ好きな子がいて、遊木の森に行ったあとそのクラスはすごい発展させているのですね。そういう刺激を核として、いろんな広がりをもっともっと教員が引き出せれば。

—:去年キノコ好きの子いましたよね。

先生1:いまはもう全部頭にインプットされてて、もうわかってるって感じですね。何々キノコだ

よとあって、すごいみんなに教えてくれました。

園長先生:なんか芝生のブランコのところにもキノコがあったんだよね。それもすごい刺激になったような。いるんだよね、なんか受け身そうだけど、でも我が道を行く子がいっぱいいるから。やっぱり積み重ねていくと違うのかなって思うので。あと年長さんになったらもっとしっかりしてくると思うので、グループの中で独特な子とか、発言する子とか、いろんな個性の子をまばらに入れられたらなって。

先生2:今回は担任と一緒にいた方がいいかなっていう子は担任がいるグループにしたので、ちょっとこう偏りっていうのは多分あったかなって思うんで、まずは発言できる子をこう均等にグループにして、他の子にいい刺激があったらいいかな、なんて。

—:グループ分けはなかなか難しいですよ。今回先生がいらっやらないグループがあったので余計ですね。

園長先生:まこのグループも面白かったような気がする。なんかそれぞれが我が道行ってるんだけど。

—:なんかいろんな遊び紹介すると、ちゃんと答えてくれるグループだったみたいですね。あとじゅんじゅんのグループなんかも割とわが道を行くタイプの子が多くて、すごくおもしろかったです。

園長先生:あのグループは多いですね。トークも自由だし、ちょっと不思議な子もいて。

—:やっぱり普段からそれを楽しんで受け入れてもらえる環境にいられてて、信頼できる先生方が一緒だから自由にいろんな発見ができるんだらうなっていうのはすごい感じますね。そこから伸びる個性があるんだらうななって。

園長先生:別に担任の先生が入らなくても、お母さんが入ってくれたグループも、もちろん私たちは言葉が聞けないかもしれないけど、それもありがたくなって私は思うんですよ。

—:お母さんたちもすごい夢中で楽しんでくれましたね。

園長先生:すごいなんかこう夢中になってたっていう。多分子ども達の声拾うというか、なに言っているんだらうって一生懸命聞こうとしてくれて。誰かな、すごい楽しかったって言ってくれてたみたいで。

先生1:皆さん言うてくださってました。自分が楽しんじゃうくらいだったって。

園長先生:去年も言えればよかったんですけど、今回はたまたまお母さんたちにも知ってもらう機会になればいいかなって。全員じゃないですけど、お声かけしたら来てくださった。その前に学園祭でも協力してもらってたんですけど、同じTシャツを揃えてきてくれて。困ることもあったらうけれど、そうやって行ってよかったって言うてくださったから、よかったなって思うんですよ。

—:いや、すごいですね、そういう保護者さん達がいらっしゃるっていうのは。

園長先生:こういう取り組みは引き続きしていきたいなっていうのもあるし、でも、ただこの1回だけに限らず、やっぱり散歩の回数ですとか、外に出る発見の回数などもあるし。やっぱり日々ですよ、何事に関してもね、これなんだろうとか、これってどういうことなんだろうとかっていうのももっとこう深めたいなと思っていて。ふりかえりの時間もとってるよね？

先生1:はい、行った日の写真は、なんか子どもから話が出そうなものを全部写真コピーして、1枚ずつ見せて。先生がいなかったグループは写真がなくてごめんねって言ったんですけど、そしたらうーんって、じゃあ自分で言葉で説明するって言うてくれて。

—:えー、凄いですね

先生1:まあ本当に簡単な、例えばちっちゃい黄色の葉っぱを見つけたとか、本当そういうことですけど、キノコがあったとか、なんかそういう見たものをみんなに言いたい、伝えたいというのが年中だとありますね。

園長先生:そのグループのその発見だけじゃなくって、あの、各クラスにモニターがあるんですよね。なので、写真を映し出して、オレンジグループはこういうの見てたんだねってなれば、うちはこういうのがあったよとかっていう発想が出てきて、すごくこのグループにフォーカスしても私はいいと思うんだけど。そうすることによって、別に写真のないチームがあったとしても、発想がもっともっと広がっていけば、すごくいいのかなと思って。だから、その振り返りはすごく大事かなって思って。

先生2:あとはその後に壁に貼って、発見したもののコーナーと、あとこういう遊びを教えるもらったよっていうコーナーを作って。それを子どもたちみんなで見ながら、子どもたち同士

で会話もしてたりとか。すごい楽しかったよねって言ってました。見つけたものとか、子どもたちが言ってたような言葉を余白に書いたりとか。あと、なんかバツタみたいのがいたんですよ。で、葉っぱと同じ色で、どこにいるんでしょうかっていうのを問題にしたり、あとグーチョギパーのあのハ表の形のやってくださったものとか。

—:えー！すごく嬉しいです。

先生2:なんか遊木の森での体験をもう1回遊びに繋げたいなって思って。

—:年中さんだと帰ってからも覚えてくれてるんですね。

先生2:覚えてますね。行く前にも、みんなが年少さんの時に行ったの覚えてる？って話をして、私が初めてだから、みんなの方が1回行ってから教えてって聞いたんですけども、なんかキノコがあったとか、何色の葉っぱがあったとか言って、一応言ったものを画用紙に手書きでぱーって書いて。これから行くから、本当にあったか確かめてみようねって、新しいものがあったらそれも見つかるといいね。みたいな話をして。キノコ、どんぐり、松ぼっくり、いろんな色の葉っぱって、すごい1年前のことを覚えてました。なので、きっと今回気づいたことも、より鮮明に覚えてるんじゃないかなと思って。

—:やっぱり園に帰ってきて、ふりかえりで落とし込んでもらってるっていうのは、記憶に残りやすいと思います。

園長先生:日々、帰りの時間をそういうものにあてようっていうことで、このグループの発見はこうだった、このグループはこうだったって、みんなで分かち合おうって言って、そういう時間を取ってね。

—:毎日ですか？

園長先生:毎日。その日に起こった出来事とかニュースがなかったら、絵本読んだり、歌を歌ったりして、さよならする日もあるんですけど。今日こんなことがあったんだよみたいなのを、そこで遊んでない子たちにも知らせるっていうか。ずっと砂場にいる子もいれば、ずっと部屋で制作している子もいるので、この場面ではこういうことがあった、こっちではこういうことがあったんだよ、だから、明日はどうしようみたいなので、子どもの選択肢がちょっと広がるかなと。

—:そうですね、明日は違うことをやってみたいとかね。

園長先生:そうそう。でも一点集中型の子も結構いるかもしれないですけど。

—:それはそれで我が道でいいですね。

園長先生:そうそう。そこから多分、担任の先生は仕掛けが変わってくると思うんですけど。だから、ここの楽しさの中にいなかったから残念だねっていうことはなくって、こっちはこっちの面白さもあるし、こっちはこっちの発見の面白さもあつたろうから、それをこう担任の先生がこうキャッチして広められれば。そういえばうちはねとか、うちだつて見つけたしと言い出す子たちが出てくるので。

先生1:まさにそうです。別に発表してって私から言ったわけではなくて、子どもから言いたい、伝えたいって言ったので、じゃあって、その時間を設けてやったんですけども、その他の写真見せてる時にもあーあつたあつたとか、うちもあつたよって声が聞かれました。逆にえー、それ見なかったみたいなのもありだと思うんですよ。

—:それはやっぱり日々の積み重ねですね。自分の考えをちゃんと伝えられるし、お友達のことも認め合えるっていう。もう習慣ができてるっていうか、それ素敵ですね。

園長先生:だから、もっとそれを先生たちが深めたいってなつた時には、また今度は違うものを図鑑なりなんなり持ってきて、そこからまた広がる遊びみたいのもあつたらいいねっていう思いもあつて。それが季節それぞれ違うんだと思うんですけども。例えば、どっかのクラスは葉っぱの色でフルーツバスケットをやったりしてました。動物とかフルーツだけじゃなくて。

—:えー、面白い

先生2:私のクラスは画用紙たくさんとのりとシートを持って行って、園内のイチヨウの木とところでシートを敷いて、まずお茶を飲みながらいろんな葉っぱを眺めて、で、その後にたくさん集めて、でそこから気に入った葉っぱを選んで、画用紙に、なんかチョウチョ作ったりとか、リボン作ったりとかして。なんかのりがつかないとか試行錯誤もしながら遊んで、で、その後にあの教えていただいた影で遊んでっていう感じで。で、今はそれが影踏みの鬼ごっこにつながっています。

色々遊木の森に行ったりとか、図鑑を持ってお散歩に行ったりとかしてて、子どもたちも自然とか生き物とかすごい大好きなんで、お正月のプレゼントを担当の先生で話し合つて決めて、自然観察かるたっていうのにして。私も楽しそうで欲しいなって思って、メルカリで買ったんですけど。お部屋でかるたで遊んでるんですけど、絵札の後ろにクイズとか解説

が載っていて、それを最近、帰りの集まりの時に時間があれば3問ぐらいやって。私が問題を出して、選択式なんですけど、1~3くらいまであって、なんでそう思うのってみんなと意見交換して、答えを発表したりして楽しんでいます。

—:自然観察かるた！そんなのがあるんですね。

先生2:そうですそうです、ひかりのくにさんから出ているもので。絵ではなくて写真がリアルなのがすごい決め手で。やっぱり目から見て、情報が最初にいっぱい入ってくるので。



—:例えば、自然観察を年中さんのこの時期に重点的にやろうとか、そういうなんかカリキュラムみたいのがあるんですか？

先生2:お正月のプレゼントは、年少は絵合わせカードみたいな同じ絵を合わせるもので、年中はひらがなも読めるようになるのでかるた、で年長さんはまたレベルが上がっていくように決めていて。

先生1:かるたの中でもどんなものにするかは毎年一緒というわけではなくて、その年によって担任が話し合って決めていて。今年は、遊木の森に行ったり、あと図鑑も使ったの虫さがしも好きだし、お散歩も好きだし。すごい「先生お散歩行きたい」って言ってくれるんですよ。ごめんねっていう時もあるんですけど、なるべく行きたいなって思って。それで、自然も虫も好きなので、そういうかるただったら、すごい楽しんでやってくれるかなって。

—:先生2は大学で自然のことを専門に勉強されていたのでしたね？

先生2:卒論でモンシロチョウを年少さんと一緒に育てて。

—:いろんな状況と先生方の想いがうまく重なって、今に活かされているって感じですね。この後何か構想とかあるんですか？

先生2:今チューリップとか、麦も育て始めていて。育てて、年長になったら、麦茶と麦ストローを作ろうっていうので。堆肥としてコーヒー豆のあの使った後のやつを土に混ぜて、学園内の畑で今作ってて、頻繁に見に行けたらなって。それはちゃんと雑草を抜いたりとか、お水をあげないと育たないんだよっていうのを感じてほしいなって。虫を捕まえたりとかしてもまだちゃんと育てるところまではいかなくて。さいあく死んじゃって終わりなので。

—:まあそれも勉強ですけどね。

先生2:そうなんですけど、大切にしてほしいなって思って。難しいんですけど、お花も命あるものなので、次の年長さんで、あさはたとかにも行くので、そういうのに繋がるようにしていきたいなって。

—:年少さんからの日々の取り組みが繋がっていきますね！ありがとうございました。

